



第3会場 ● 4F 視聴覚室

■司 会／石飛 安弘 雲南市地域委員会連絡会 会長
眞鍋 幸一 愛媛県県民活動推進課 課長

分科会の進め方 13:30~13:35

1 無職少年等相談・支援事業
ー「萩ユースふれあいスペース事業」が目指したものー 13:35~14:05

末永 光正(山口県 萩ユースふれあいスペース事業 総合コーディネーター)

山口県の助成を受けて平成15年に開設。老人福祉センター・公民館を拠点に展開。様々な事情により職業に付いていない青少年の自立に向けた指導支援を行ない、これまでに延べ50人以上の参加者に対して「学習支援」、「ボランティア体験の準備」、「野外活動」、「職場体験」等の機会を提供して来た。課題は、対象者の正確な把握、当人のプライバシーの問題、予算確保であり、フリースクールなど関係機関との連携を摸索している。

2 子どもを育てる地域の基盤形成につなぐコミュニティ・スクール
ー学校・家庭・地域の連動(コンビネーション・プロジェクト)を通してー 14:10~14:40

今村 隆信(福岡県春日市立春日西小学校 校長)

コミュニティ・スクールの運営理念は学校、家庭、地域の資源や教育力を結集することである。まずは、第1ステージとして、学校、家庭、地域の実態と課題を明らかにし、教育目的を共有し、7つのプロジェクトにそれぞれの役割を分担した。第2ステージは、プロジェクトの成果を継続しつつ、コンビネーション・プロジェクトとして相互に連働し、「公民館寺子屋」や「地域人材のバンクづくり」を推進する。

ティータイム 14:40~15:05

3 創作民話本「尾道草紙」の企画・執筆・挿絵・出版・活用
ー尾道大学による地域資源の発掘と活性化の実験プログラムー 15:05~15:35

田村 禎英(広島県 尾道大学創作民話の会 代表)

2006年より日本文学科と美術学科の連携により地域に根差した新たな創作民話の制作活動を継続し、すでに5冊の出版を実現している。文章は日本文学科「文芸創作演習」受講生有志が、挿絵は美術学科学生有志が担当する実習・実践型の教育プログラム。地域資源の発掘と活性化を目標とし、尾道市立中央図書館との協働による朗読コンサートも実現している。出版活動資金には尾道大学特別研究助成金を充当している。

4 ホタルの里づくりでまちづくり
ー心のホタル、連帯のホタル、まちおこしのホタルー 15:40~16:10

井塚 照雄(鳥取県南部町 金田川ホタルの里 代表)

ホタルは日本の原風景。有志が取り組んだ原風景の回復は子どもたちに自然環境保全の大切さを教え、地区民の連帯意識を強めた。ホタルの乱舞は世間の注目を集め、観光客を引き寄せ、駐車場の整備も整った。期間中には区内の子ども会、いきいきサロングループなどがバザーを出し、町主催で「ホタルウォーク」も実施される。観光客にもホタル観賞マナー(光・騒音)の向上をよびかけ、ホタルの里づくりでまちづくりが進んでいる。